

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回2月のてがたんは、2月14日(土)で、「光の春を探そう」がテーマです。身近な動植物の春への準備の様子を観察します。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、2月7日(土)の9:30からです。よろしくお願いたします。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→漁協前→親水広場(解散)
- 観察日時と天気：2015年1月10日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：17人(大人11人、こども6人)
- 市民スタッフ：7人 (木村稔、蒲田知子、石原直子、伊東茂子、小泉伸夫、須貝基康、染谷迪夫)
- 鳥博職員：2人 (小田谷嘉弥・染谷実紀)

観察した生き物の記録

【鳥類】

カモ科：カルガモ、オナガガモ、ミコアイサ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：コサギ／クイナ科：オオバン／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／ハヤブサ科：チョウゲンボウ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ
外来種や家禽：コブハクチョウ、ドバト

【昆虫】

チョウ目：ゴマダラチョウ(幼虫)、クワコ(まゆ)、イラガ(まゆ)／カマキリ目：オオカマキリ(卵)、カマキリ(卵)／カメムシ目：カイガラムシの仲間

【実】

クスノキ科：クスノキ／バラ科：トキワサンザシ／モクセイ科：トウネズミモチ／アジサイ科：ウツギ類の一種／アカネ科：ヘクソカズラ／カバノキ科：イヌシデ(虫こぶ)

【両生爬虫類】

アカガエル科：ウシガエル(モズのはやにえ)

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「冬鳥を楽しむ」でした。風が強く寒かったですが、手賀沼で冬を越す鳥たちの生活の様子をじっくり観察することができました。



今月の案内人 木村稔さん、蒲田知子さん



①ピラカンサを食べに鳥博前に来たムクドリ



②鳥博駐車場の上空に現れたチョウゲンボウ



③ミニ手賀沼に集まっていたカルガモ



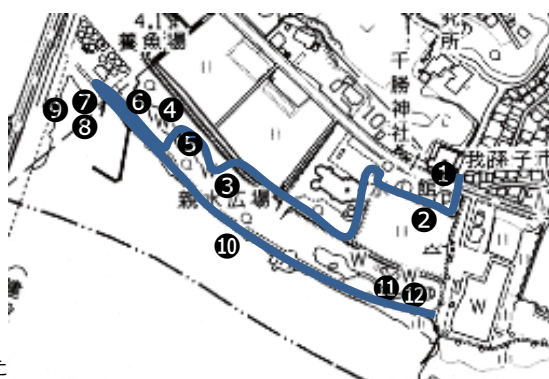
④カイガラムシの仲間の越冬の様子を観察中



⑥1か所にたくさん産みつけられていたオオカマキリの卵



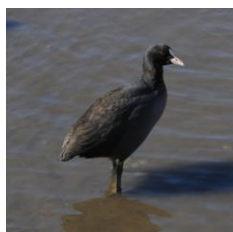
⑤ミニ手賀沼の岸のヨシに刺さっていたモズのはやにえ。獲物は上陸したばかりのウシガエルでした。



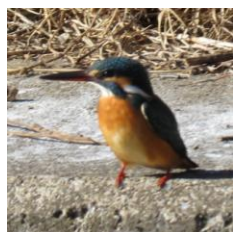
歩いたルートと観察した生き物



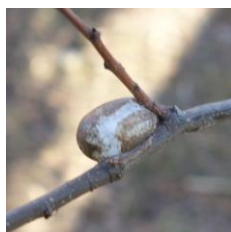
⑦漁協の前に集まるオナガガモの群れ。この日の性比は雄37：雌43でした。雄が少し少ない結果となりました。



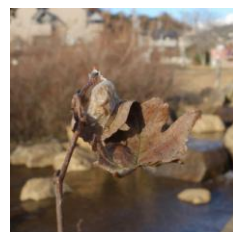
⑧オナガガモに混ざって採食していたオオバン



⑨岸に止まって魚を狙っていたカワセミ



⑩エノキの枝についていたイラガのまゆ



⑪クワの葉についていたクワコ（カイコの原種）のまゆ



⑫キジバトの巣。今は使っていないようだ

今月の鳥 オナガガモ（カモ目カモ科）

オナガガモは手賀沼ではマガモ、コガモと並んで最も数の多いカモの一つです。カモの仲間では、雄が雌よりきれいな種が多く、オナガガモの雄は長い尾羽や白い胸、チョコレート色の頭部から、全身茶色で斑のある雌と見分けることができます。鳥の中には雄と雌で渡る距離が違う種類が知られています。それを知ることは、鳥の渡りや移動がどのように進化してきたのかを解明するために重要です。今回参加した調査は、カモの越冬する場所で性別の比率に偏りがあるかを調べたものですが、結果はバードリサーチのホームページで終了後に取りまとめられます。ぜひチェックしてみてください。カモの性比調査：http://www.bird-research.jp/1_katsudo/kamo_osu_mesu/index.html



給餌に集まるオナガガモの群れ